

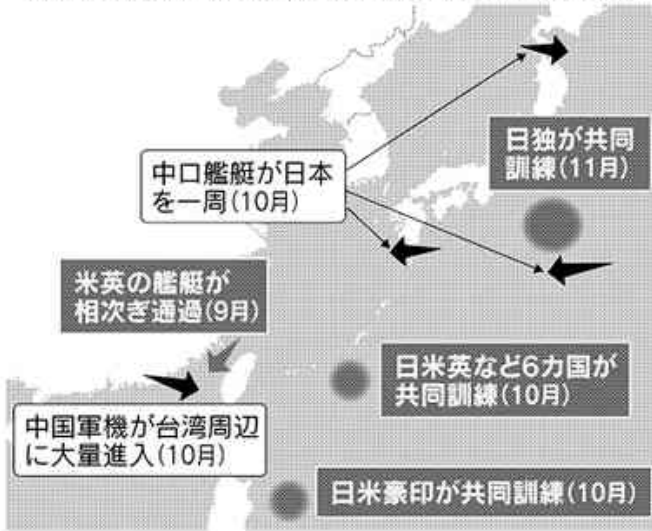
ドイツ海軍のフリゲート艦「バイエルン」が5日、東京に寄港した。ドイツ艦艇の来日はおよそ20年ぶりとなる。今年に入りフランスや英国なども日本周辺に艦艇を派遣しており、欧州の対中姿勢の変化が鮮明となっている。

海上自衛隊は4～5日の間、関東南方の太平洋上でドイツ海軍と共同訓練を実施した。海自の護衛艦「さみだれ」とバイエルンが互いの練度を高めた。バイエルンは5日午後、東京国際クルーズターミナル（東京・江東）に入った。

岸信夫防衛相は同日、寄港中の艦艇を視察した。その後の記者会見で「20年ぶりの派遣はドイツの決意を国際社会に示すものだ」と述べた。「自由で開かれたインド太平洋の強化に寄与する。他の欧州諸国の関与拡大に

ドイツ艦、20年ぶり日本寄港 対中抑止、関与にカジ

最近の日本周辺海域での日米欧と中口の動き



防衛協力へ共同訓練

もつなぐると期待する」と語った。ドイツはフランスなど

ドイツは東京を出た後、北朝鮮が海上で積み荷を差し替える「瀬取り」の警戒監視活動に加わる。ドイツへの帰路で南シナ海を航行する。力による現状変更を続ける中国を意識し、国

ドイツはこれまで経済上のつながりから中国との関係を重視してきた。近年は香港や新疆ウイグル自治区での人権問題を無視できなくなった。欧州のほかの国と足並みをそろえるようにアジアへの関与の強化を打ち出し

ドイツ政府は「インド太平洋ガイドライン（指針）」を2020年に策定し、東アジアへの艦艇の派遣を調整し始めた。今年4月、日独両国が外務・防衛担当閣僚協議（2プラス2）をオンラインで開催し、共同訓練と日本への寄港が正式に決まった。

英空母「クイーン・エリザベス」が9月に米軍横須賀基地（神奈川県）に寄港するなど、欧州の艦艇の来日が続く。日本周辺の海域で各国の軍が活発に動くためだ。中国と台湾を隔てる台湾海峡で9月以来、米英の海軍のフリゲート艦や駆逐艦が相次ぎ航行した。10月上旬には日米英とオランダ、カナダ、ニュージーランドの6カ国が沖縄南西の海域で共同訓練した。米英の3隻の空母が参加し、中国に力を見せつけた。

中国は10月上旬、台湾の防空識別圏に1日でのべ56機もの戦闘機や爆撃機を導入させ圧力をかけた。中下旬にはロシア海軍とあわせ10隻の艦隊で津軽海峡と大隅海峡を通過し、日本を一周する大規模な演習を開催した。日本政府は米国の同盟を軸に、共通の価値観を持つ国々との連携を急ぐ。オーストラリア、インドを交えた「Quad（クアッド）」や欧州に防衛面の協力を呼びかけてきた。ドイツ艦艇の20年ぶりの寄港はその成果ともいえる。